

出題分析			
試験時間	120 分	配点	120 点
		大問数	5 題
分量 (昨年比較)	[減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>例年通り、全問記述式である。</p> <p>確率、複素数平面の問題が出題されなかった。</p> <p>[II]、[IV] は思考力が必要な問題で、[V] (3) の計算はやや重たい。これらのことから、近年の問題と比較しても、今回のセットはやや難しい部類に入るだろう。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
[I]	3 次関数 (極値、グラフ) 指数・対数関数	テーマ自体は、置き換えにより指数関数を 3 次関数に帰着させるという典型的なものである。ただし、ひと工夫加えられた出題になっており、機械的な処理だけでなく、きちんと考察する必要がある。	標準
[II]	整数	非定型な等式に関する整数の問題である。 (1) は両辺を 2 乗すると、根号の数が減り見通しが良くなるという方針のもとで計算すればよい。 (2) は (1) で示した不等式に加えて、複数箇所に平方数が現れるからそれに着目する。 (3) は具体的に自然数解を求める設問で、(2) が解けなくても、この設問は解けることが特徴である。	やや難
[III]	空間ベクトル (座標空間)	平面と直線の交点、同一平面上にある点の位置、三角形の面積公式といった典型的なものがテーマとなっている。完答を目指すべき問題だった。	やや易

[IV]	数列 (漸化式、数列の和)	非定型な漸化式に関する問題である。 (1)は具体的に計算するだけだが、ミスしないように注意が必要である。 (2)は解答例のように漸化式を解けばよい。ただし、問題文で指定された形にするのに戸惑った受験生もいただろう。 (3)は歯が立たなかった受験生が多かったように思われる。 $a(n)$ の値について、解答例のように適切にグループ分けをできても、1グループの和について漸化式が立てられることに気づくのは難しい。	やや難
[V]	微分法 (グラフ) 積分法 (回転体の体積)	(1)、(2)は典型的な微分法の問題である。 (3)は難しいわけではないが、 y 軸の周りの回転体の体積であるため、計算ミスや書き間違いといったミスにより出来は良くないものと推測できる。	標準

合格のための学習法

標準的な難易度の問題が中心に出題される傾向がある。まずは、高校数学で扱う全範囲の典型問題を確実にこなす学力を身につけておく必要がある。特に、微分法・積分法、複素数平面、確率、図形問題が頻出であるため、これらについては過去問などを通して、幅広く学習しておこう。そして、この学部は全問記述式であるから、内容を整理することにより、できるだけわかりやすい記述ができるように、日頃から練習することを心がけよう。